

## 卒業生・修了生・就職先によるカリキュラム評価

カリキュラムセンター 食産業学群担当

**目的：**宮城大学の教学アセスメントの一つとして、卒業生・修了生および就職先担当者からの評価を実施し、本学の教育課程・教育プログラムにおける課題を抽出し、在学生による評価と統合して教育の質保証及び教育改善を行う。本年度は試行として、食産業学群卒業生及び就職先による評価を実施した。

**実施期間：**2025年2月13日～2月28日（金）

**調査対象：**食産業学群2021年度卒業生及びその就業先

（参考）2021年度卒業生126名、就業先96社（進学を除く）

**調査方法：**過去5名以上就職している企業19社の担当者に対し、メールにてFormsアンケートへの回答を依頼した。併せて在籍する卒業生への案内の転送と回答も依頼した。

**調査項目：**（就業先）DP5項目と社会人基礎力12項目について「本学群卒業生が現時点において、どの程度その能力を発揮・有しているか」を5段階評価（必須項目）で、「大学卒業時、学生に修得してほしい能力」、「宮城大学の教育内容について意見や要望等」、「本アンケートについて意見や要望等」を自由記述として実施した。

（卒業生）DP5項目について「卒業時にどの程度その能力を有していたか」、社会人基礎力12項目について「大学での学修がどの程度役に立っているか」をそれぞれ5段階評価（必須項目）で、「大学卒業時、修得しておきたかった能力」、「宮城大学の教育内容について意見や要望等」、「本アンケートについて意見や要望等」を自由記述として実施した。

### 結果概要：

- ・就業先9件、卒業生7件の回答を得た。
- ・DPに掲げる力については、総じて卒業生より就業先の方が評価が高かった。また、就業先は回答者により評価の差が大きかった。
- ・社会人基礎力についても、総じて卒業生より就業先の方が評価が高かった。特に「前に踏み出す力（アクション）」2項目（主体性、働きかけ力）については、卒業生の評価と比べ就業先の現在の評価は高かった。両者で共通して評価の低い項目は「ストレスの発生源に対応する力（ストレスコントロール力）」、「新しい価値を生み出す力（創造力）」であった。
- ・就業先からの「大学卒業時、学生に修得してほしい能力」は、コミュニケーション力や協調性を複数の回答者が挙げていた。
- ・卒業生の「大学卒業時、修得しておきたかった能力」は、資格、プレゼンテーション力、課題解決力などが挙げられた。
- ・次年度調査に向けた課題として、回答数の向上、多様な就業先に対応した質問項目の設定、就業先の業種と卒業生の職種の把握などが挙げられる。